

# のびろ作業所 平成 28 年度事業報告

## 1 総括

平成 28 年度は利用者の高齢化による通院、入院、退院、退所、他施設への移動等、多少の変動があり、のびろ開所以来の利用者さんは 20%を切り、世代交代を感じる一年でした。

利用者さん支援として、作業の合間のひと時にレクリエーション活動を行ったり、送迎のサービスを行ったりと、福祉施設として魅力ある、作業所づくりを考えていかななくてはならないと思う一年でもありました。

### ・就労支援事業活動

就労支援事業は「接遇姿勢の向上」を中心に、

- ・全員が出来る仕事
- ・利用者さんのスキルに合わせた作業説明
- ・余裕のある納期
- ・社会を肌で感じる

以上の事を踏まえ支援を行ないました。利用者さんも職員も良好な人間関係を保ち、余裕をもって作業に取り組むことが出来ました。又、接遇姿勢も向上して来ており、利用者さんとの信頼関係もより一層高まりました。授産活動は昨年度よりも 39 万円程の減収になり、今年度は 390 万円程の収入になりました。各社から請け負う作業に慣れ、見込み量の読みが深くなり、丁度良い作業量をこなせるようになってきたのですが、単価の安さや不安定な作業量が減収につながってしまったのでは？と考えております。又、利用者の高齢化に伴い、通院の付き添い、入院時の対応などに時間を取られることも少なくありませんでした。その事も結果的に作業量を減らし減収につながってしまったと考えております。

### ・福祉事業活動

今年度は障害福祉サービスの報酬改定は行われませんでした。上半期は 25 名の利用で定員数でしたが、下半期は入院、退所があり定員割れがあったものの土曜日開所、送迎の実施などで利用日数が増え、昨年度よりも 190 万程の増収になり、3,337 万円になりました。

※中期目標について

のびろ作業所は昭和 54 年開所で築 37 年程経ち、新耐震基準の建築物ではありません。以前にさいたま市より、耐震工事、建替えについての計画の有無を問われ、選択をしていかなくはなりませんでしたが、今年度は進展がありませんでしたが、次年度に向け方針を定めていきたいと考えております。

## 2 重点目標(課題)の成果と課題

重要課題(目標)	成果と課題
1) 接遇姿勢をより良いものに高める。	今年度は虐待研修をはじめ様々な接遇に係る研修に参加し、改めて接遇の難しさを考えさせられました。結果、所内での利用者さんの笑顔や笑い声が今まで以上に沢山聞けるようになりました。課題としてはそれらのことをどの様に定着していくかが問題の一つとして残った気がします。
2) 作業収入を上げる	450万の目標に対し59万円程の減収になり、達成率は86%でした。作業に関しては空き時間は少なくなかったものの、低単価、小ロットが原因として考えられます。又、高齢化に伴い、通院、入院の付き添い等で職員の手が取られることもあり結果的に減収になってしまったと考えられます。
3) 作業の開拓	今年度いくつかのオファーはありましたが、つながる仕事はありませんでした。以前に行っていた、組箱関係の作業もお話がありましたが、立ち消えとなってしまいました。
4) 就労支援	2名就労支援ということでしたが、知的障害の方で企業に就労経験のある方が希望しており、来年度に向かい調整中で、今後面談や企業見学等を行ない就労支援に取り組んでいきます。もう1名に関しては利用者さんが消極的で、もう少し時間が掛かりそうです。
5) 障害程度区分の取得	現在、40%の方が取得はされており、今後は時期を見計らい作業所やホームの将来像のニーズに沿って、利用者さんが充実したサービスが受けられるようにしていきたいと思います。

### 3 利用実績(利用延べ人員)

	通所	入院	新規入所	退所
定員	25			
4月	464			
5月	446		1	
6月	523			
7月	507			
8月	510			
9月	472	1		
10月	477	1		
11月	447	1		
12月	456	1		
1月	443	1		
2月	467	1		
3月	520	1		1
計	5,732	7	1	1
利用率	87.8%		昨年度利用率	30.0%
昨年度	5,471	16	2	4

### 4 年間入所(通所)者の状況(平成29年3月31日現在)

	男性	女性	計
男女内訳	16名	9名	25名
平均年齢	49.1歳	44.7歳	47.6歳
平均在所期間	15年9月	18年5月	16年8月
年間延利用人数	3,891名	1,841名	5,732名

#### 障害程度区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし	計
男		2	3	2				7
女		2	1					3
計		4	4	2				10

## 5 利用者の状況(平成 29 年 3 月 31 日現在)

年間利用者数(定員 25 名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人員	月平均
男	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192	16
女	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107	8.9
計	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	299	24.9

利用実績(延人数)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	27 年
開所 日	20	19	22	23	23	22	23	22	23	22	20	23	262	243
人数	464	446	523	507	510	472	477	447	456	443	467	520	5732	5471
稼働 率	92%	93%	95%	88%	88%	85%	82%	81%	79%	80%	93%	90%	87%	90%
入所		1											1	2
退所												1	1	4

利用者年齢構成

年齢	18	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	人員	平均 年齢
	2	29	34	39	44	49	54	59	64	69	74	80		
男		1	2	1		3	2	3	1	1	2		16	49.1
女			1	2	2	1		1	2				9	44.7
計		1	3	3	2	4	2	4	3	1	2		25	47.6

※利用者の平均年齢は 47.6 歳。25 歳から 74 歳と幅広い年齢の方が利用しています

利用者障害等級

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	A	B	C	精神	計
男				2		3	6	2	3	16
女		1				5	1		2	9
計		1		2		8	7	2	5	25

- ・入所者 平成 28 年 5 月 さいたま市南区より女性(精神)
- ・退所者 平成 29 年 3 月 他施設入所の為、女性(身体)
- ・作業所利用者のうち 6 名が生活ホーム「のびろ荘」、7 名がグループホーム「第 2 のびろ荘」で生活しており、「のびろ荘」からは徒歩、「第 2 のびろ荘」からは送迎車で通所しています。
- ・身体、知的、精神と 3 障害の利用者さんが一緒に助け合って日々作業していますが、能力的にはかなりの差があります。幸い作業種も多いので全員手を休めることは無いのですが、誰にでも出来る簡単な仕事が多く結果的に収入に繋がらないのが辛いところです。

## 6 利用者の支援について

### 生活の目標

- 1 日常生活を通じて、個々の生活を大切にします。
- 2 生活に必要な習慣、知識を身につける。
- 3 生活への自信と意欲を養い、適応能力を高める。

### 作業目標

- 1 障害、能力に合った作業を行ない働く喜びを実感する。
  - 2 働く上での必要な体力、忍耐力を身につける。
  - 3 働くことの意義、習慣、責任を身につける。
  - 4 皆で力を合わせ働くことで、助け合いの大切さを身につける。
- ・上記の目標を踏まえ、年 2 回個別支援計画を作成しそれに基づき生活、作業支援を行いました。
  - ・利用者さんの作業能力に基づき 100%から 30%の評価を付け工賃を毎月 15 日に支給しました。

## 7 利用者の健康管理

- ・健康管理について、利用者さんは年に一回、戸田中央総合健康管理センターの検診バスにて健康診断を実施。今年度は平成 28 年 10 月 17 日実施。その結果に基づき健康管理を行ないませんが、通所施設ということで家庭からの利用者さんは保護者にお任せしております。のびろ荘、第 2 のびろ荘の利用者さんにおいては通院等の必要な支援をホーム職員と協力し行なっております。
- ・今年度、事故等はありませんでしたが、身体障害の女性 1 名が蜂窩織炎により 6 ヶ月ほど入院しました。退院後は生活ホームでの生活は難しく、よって作業所も退所になりました。身体障害の男性 1 名も尿路感染により熱発 5 日間程入院。退院後は元気に作業所に通所しています。他の利用者さんは高血圧、癲癇、統合失調症失調症の慢性疾患の他、歯科の通院治療が主なものでした。

## 8 職種別職員数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

	常勤	昨年度
施設長	1 名	1 名
サービス管理責任者	1 名	1 名
職業指導員	2 名	2 名
生活支援員	2 名	2 名

## 9 職員研修

平成 28 年 5 月	ボランティア新任研修
6 月	記録の書き方研修
10 月	レクリエーション研修
11 月	虐待防止研修
11 月	虐待防止(日常に潜む)研修
11 月	社会福祉等における防犯・防災・防火研修
11 月	障害者権利条約研修
平成 29 年 2 月	権利擁護研修
2 月	アンガーマネージメント研修
3 月	成年後見制度研修
3 月	障害年金制度研修

## 10 職員の健康管理

平成 29 年 3 月 2 日・15 日・28 日・30 日、35 歳以上の職員について、川久保病院にて成人病予防検診を実施。

## 11 ボランティアと実習生の受入

ボランティアの内容と人数

内容	日数	人数
作業ボランティア	44 日	44 名
バザーボランティア	5 日	24 名

実習生の受け入れ人数

実習目的	学校名	実人数	延べ日数
社会福祉施設 現場実習	さいたま市立大谷口中 学校	1 名	3 日

## 12 苦情・事故

なし

## 13 防災について

・10月に2階作業所を出火元と想定し、競馬場駐車場に避難訓練を行なう防災避難訓練を実施しました。

・3月に消防署の立ち会いのもと、作業所1階倉庫を出火元と想定し、職員の誘導により競馬場へ避難訓練を行ないました。その後、消火器の取り扱いの説明を受け消火訓練を実施しました。

・消防設備点検は協栄防災工業㈱により、年2回、平成28年9月と平成29年3月に実施しました。

## 14 作業について

今年度は9業者から作業をいただき一年間過ごしました。通年作業を出していただける業者は5業者になりましたが、昨年度と比べ、収入が39万程下がってしまいました。作業単価の安さや不安定な仕事量が減収につながってしまったと考えております。

(作業種別収入一覧表)

作業内容	金額
1 化粧箱の組み立て	3,232
2 電線接続部品の解体再生	244,980
3 各種封入	463,499
4 各種販売促進グッズの組み立て	1,292,317
5 月刊誌の付録組み立て	1,391,436
6 タオル折り作業	78,025
7 リサイクル物品の販売	433,627
計	3,907,116(預金利息 47円を除)

## 15 レクリエーション活動

仕事ばかりで、催し物の少ないのびろですが、仕事の合間をやりくりして楽しみました。

- ・お花見(3月31日 大宮公園 参加者31名)
- ・浦和障がい者施設連絡会主催のthe エンタテイメント(6月3日 障害者交流センター 参加者25名)
- ・埼玉福祉事業協会主催の運動会(10月9日 大宮日大法学部校舎 参加者18名)
- ・浦和障がい者施設連絡会主催のthe 運動会(10月14日 障害者交流センター 参加者29名)

名)

- ・一泊旅行（11月1日～2日 秩父方面 参加者 34名）
- ・ポップサーカス招待見学（11月7日 アリオ上尾 参加者 29名）
- ・クリスマス会（12月21日 のびろ作業所 参加者 29名）

## 16 保護者との連帯

- ・保護者とは NPO 法人のびろ福祉会を立ち上げ、生活ホームとグループホームを 建設運営しています。
- ・のびろの行事には希望する保護者の参加を受け入れています。しかし保護者も高齢化し、だんだん体調が思わしくない方が増え参加者も減少する一方です。
- ・保護者の方々にはバザー前日の準備、当日の売り子、値付けをご協力いただいています。

## 17 地域活動について

- ・地域協力者宅の古着、バザー物品の回収、年 1～2 回のバザーの開催。
- ・近隣自治会の総会、役員会等の場としての開放。

## 18 建物、設備の修理、補修について

- ・今年度、5月にエアコンが故障し、リースにて購入致しました。